

## 団体名 特定非営利活動法人mia forza

### 見守り活動のタイトル

複数の事業でひとり親世帯をまるごと応援させていただいておりますので、

見守り活動の総合的なタイトルはありません。

### キャッチコピー

法人のキャッチコピーは、「あなたのちから つながるちから mia forza」です。

見守り活動のキャッチコピーはありませんが、

スタッフの合言葉は「誰もひとりにしない」「誰も『お客様にしない』」などです。

代表理事 門間尚子

住所 宮城県仙台市宮城野区鶴ヶ谷5-8-9

連絡先 miaforza.sendai@gmail.com

ウェブサイト: <https://www.facebook.com/miaforza.sendai>

※HPは5月公開予定

団体活動開始: 2015年8月発足。2021年10月法人化



## 見守り活動の概要

- ひとり親世帯全体への食糧等の応援；ひとり親世帯のためのフードパントリー事業、  
宮城の新鮮食材お届け便事業 など
- ひとり親世帯の子どもたちの応援；子どもの居場所・みあちゃん家事業、寺子屋みやちゃん家事業、  
芸術・文化体験事業、奨学金申請サポート事業、高校を通じた食糧・生活用品お届け事業、  
少年院入院者・出院者応援事業（社会参画・つながりサポート）、個別相談（面談・訪問）、  
ひとり親世帯の大学生への食糧・生活用品のお届け など
- ひとり親世帯のお母さんの応援；個別相談（面談・メール・電話・オンライン面談・家庭訪問）、  
ピアサポートグループ、同行支援、就労支援 など
- 母子対象の応援；シェルター受け入れ（無料・無期限・利用回数上限なし）

## 見守りエピソード/ストーリー

●子どもたちの変化：「学校外の友達ができ」「挨拶ができるようになった」「感謝の気持ちを伝えられるようになった」「勉強が楽しくなった」「初めての人でも自分から声かけられるようになった」「学校の友達関係が楽になった」「友達が増えた」「親に相談できるようになった」「大学に行きたいと思うようになった」「好きなことが増えた」等、子どもたちから感想が寄せられました。同時に、「学校の先生からうちの子が、友達関係にも勉強にも積極的になり驚いています、と言われ、私も嬉しい驚きだった」とのお話が親御さんから届きました。

●親の変化：アンケートにて「子どもと会話が増えた」「自分のことを考えられるようになった」「健康に少し自信が出てきた」「正社員へ転職ができ」「家計が楽になった」「貯金が少しできるようになった」「子どもに服を買うことができた」「お金や食べ物の心配がなくなった」「ひとりではないと思えるようになった」「相談先ができた」等、家計の変化だけではなく、親自身の心身の健康や余裕ができたことがわかりました。



子どもたちの育つ家庭の応援なくして、子どもたちの見守りはできないと考えています。家庭全体と親個人への直接的な応援にも力を入れることで、子どもたちの置かれている環境に変化が生まれています。

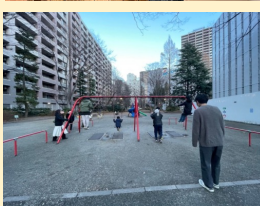


## 活動写真



子どもの居場所・みあちゃん家と寺子屋みあちゃん家の様子。屋内外での遊びと学び、食の提供を行っています。

宮城の新鮮食材お届け便事業では、県内の生産者と連携し地場の旬の食材をお届けしています。食材をハブとして、家庭全体への食育や親子関係の深まりを応援しています。



## 見守り活動のポイント

### ■利用者への対応ポイント

- ・感謝を持って対応する：勇気を持って連絡をくれた・悩みを打ち明けてくれた・時間を作って相談やサービス利用に来てくれた 等
- ・受けとめる：自分の価値観や経験を持ち込まず、話してくれたことをそのまま受けとめる
- ・必ず声をかける：サービス利用の際には必ず声をかける。ひとりではないことを様々な形で伝える
- ・誠実に対応する：わかったふりをしないこと。わからないことはわからないと伝え、調べたり他のスタッフの力を借りて対応をする

### ■組織内でのポイント

- ・チームで動く：単独では動かない。必ず、チームで動く
- ・情報共有は密に：小さな気づきでも必ずチーム内で共有する
- ・事業間連携を密に：複数の事業の連携で応援していく当法人の特徴をフルに活かす

### ■関係機関との連携のポイント

- ・常に情報収集：地域にどのような専門機関がありどのようなサポートを行っているのか、常に情報収集を行い、適切な連携やリファーを実現する
- ・個人情報保護を踏まえた密な連携

### ■自治体への対応のポイント

- ・自治体の施策を理解し、提案型の声かけを行う
- ・事業を通して得た「声」を政策提言として、自治体へ届ける

## 見守り活動をはじめた背景

背景として最も大きなことは、コロナの感染拡大を受け、ひとり親世帯の困窮が激化したことでした。困窮緩和のために、まず最初に行った活動が、食糧・生活用品の提供です。他にもいくつか、背景となる状況がありました。例えば、他地域に比べ、宮城県は不登校率が高く、また、仙台市はいじめの率が高いというデータが出ています。日本財団による調査では、自死念慮や自死を選ぶ方の多くに、不登校やいじめの経験が見られるとのことでした。同調査結果を宮城や仙台の状況に照らし合わせると、宮城や仙台の子どもたちは、将来、他地域の子どもたちに比べ、高い確率で自死念慮や自死を選ぶ可能性があるのではないかと考えました。また、そこには、孤立があるように思います。子ども時代に学校や家庭・地域ではなかなか出会えないような多様な人たちとの交流が孤立防止となり、将来の自死念慮や自死を選択を防ぐ一助になるのではないかと考え、子どもたちが多様な人たちと出会い、その人たちと共に過ごす時間と経験の提供を行うこともの居場所を開設しました。また、仙台市では、ひとり親世帯・生活保護受給世帯の子どもたちを対象に無料の学習支援を行っていますが、利用できる子どもたちには、「児童扶養手当満額受給」という制限があります。他市町村では、このような制限はないと多く聞いていましたが、ここ仙台市では「一部受給者の利用は不可」とのこと。ひとり親世帯は就業率が高く、収入があることで一部受給世帯がほとんどです。これらを背景に、ひとり親世帯の子どもたちとお母さんたちから届いた声を受け、見守り活動事業を立ち上げました。

## 対象／頻度／内容

### (1) ひとり親世帯全体への食糧等の応援

- 対象者：宮城県内のひとり親世帯
- 対象世帯：登録約80世帯
- 場所：宮城県仙台市宮城野区（詳細非公開）
- 頻度：食糧・生活用品提供月2回以上。緊急対応あり。
- 内容：ひとり親世帯のためのフードパントリー事業（食糧・生活用品等の提供）、宮城の新鮮食材お届け便事業（宮城県内の食材の提供をとした食育と親子関係の構築の応援）

### (2) ひとり親世帯の子どもたちの応援

- 対象者：ひとり親世帯の子ども（小学生～大学生）
- 対象人数：約150人
- 場所：宮城県内
- 頻度：週1回～月1回（頻度はそのお子さんによって異なります）
- 内容：こどもの居場所・みあちゃん家事業（学び・遊び・食の提供）、寺子屋みやちゃん家事業（無料学習支援。学びと食の提供）、芸術・文化体験事業（芸術・スポーツ等の鑑賞・体験の提供）、奨学金申請サポート事業（奨学金情報提供、奨学金申請相談等）、高校を通じた食糧・生活用品お届け事業（公立高校にて困窮する高校生への食糧・生活用品の提供）、少年院入院者・出院者応援事業（在院中の社会参画としてボランティア活動の提供、卒院生へのつながりサポートとして卒院セットの提供、院生を対象とした講話等）、個別相談（面談・訪問）、ひとり親世帯の大学生等への食糧提供 など

### (3) ひとり親世帯の親の応援

- 対象者：ひとり親世帯の親
- 対象世帯：20世帯
- 場所：宮城県仙台市宮城野区または青葉区（詳細非公開）、オンライン
- 頻度：随時
- 内容：個別相談（面談・メール・電話・オンライン面談・家庭訪問）、ピアサポートグループ、同行支援、就労支援 など

### (4) 母子対象の応援

- 対象者：ひとり親世帯の母子、高校生以上の学生、18歳以上の女性
- 対象人数：非公開
- 場所：非公開
- 頻度：随時
- 内容：シェルター受け入れ（無料・無期限・利用回数上限なし）



## 見守り活動において抱えている課題

- 予算の確保：自治体の見守り強化事業を受託しておらず、ひとり親世帯まるごと対応する包括的な活動を独自で行っています。国や自治体からの補助や助成を受けていないため、事業の財源確保（特に人件費）に苦慮しています。
- 担い手の育成：年間数回、担い手育成事業を行っていますが、ひとり親世帯やこどもたちの置かれている状況の急激な悪化により、常に人手が足りない状況です。

## 見守り活動を行う組織体制図



## 他団体との連携

- NPO・ボランティア団体
- NPO・ボランティア団体へ助成を行っている国内外の組織
- 宗派を超えた各宗教組織
- 地元企業を中心とした企業
- 有機無農薬農家や漁業士等の生産者
- 宮城県・仙台市をはじめとする県内自治体
- 社会福祉協議会
- 保育所・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・専門学校・大学等の教育機関等
- 住民自治組織・町内会・育成会・PTA
- 保護士・民生委員・児童主任児童委員

連携組織は、約70組織